

プログラミング的思考を学ぶ 遠隔授業を開始

守口市教育委員会では、

協定を締結している大阪電気通信大学と連携し、錦小学校でインターネットを活用した遠隔授業を開始した。

これは、来年度から小学校でプログラミング教育の必修化に向けた対応で、プログラミング教育における専門性の高い授業を行うため、遠隔教育システムを導入し、大学教員からインターネットを介して児童が指導を受けるものである。

導入にあたっては、文科省の遠隔教育システム導入実証研究事業を活用し、ウェブカメラ15台、マイクスピーカーシステム5台など、ICT環境



遠隔操作で指導する大村先生

を整備し実施に至った。

大村基将大阪電気通信大学情報教育特任講師が大学から遠隔操作で指導をするもので、10月末から来年2月まで行う。2年生は国語2h、3年生は総合的な学習の時間3h、4年生は社会3h、5年生は算数2h、6年生は理科2hと算数3hの全3クラスで計45コマを実施。全国でも数少ない試みであり、小学校の先生方には新たなチャレン

ジともなるため、実施に至るまでには、大学と教育委員会、学校の教員との間での密な交流が続いた。準備に相当な日数をかけ、大村先生は、機器の操作確認であったり、教材づくり、授業の流れなど、また個別で細かく間に入るなど準備に迫られたが、順調に遠隔授業は行われている。

教育委員会の担当者は「ICT社会教育センターを設置しプログラミング教育を含む情報教育について先進的に研究をしている大阪電気通信大学の支援を受けることにより、各教科・領域等におけるプログラミング教育をできる限り円滑に実施できるよう取り組んでいきます」と語る。

※4面関連記事参照